

事務事業名	伊那谷美術展示公開事業		会計	一般会計	実施区分	継続		
H29作成課等名	美術博物館	H29係等名	学芸係	事業種別	政策	開始 1 終了		
H28担当課等名	美術博物館							
基本計画上の位置づけ	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり					
	施策	29	ふるさと意識の醸成					
目的	対象(誰・何を)	1 飯田下伊那広域圏の地域住民 2 学芸員の調査・研究活動		対象指標	指標名及び単位		28年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	1 展覧会の開催を通じて、自然や文化・芸術に対する関心が高まり、新たな知識や感動を得る 2 調査研究活動の成果を地域に還元する			圏域住民数(人)	160827		
	向上させたい上位施策の成果指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)						
目標	種別	指標名及び単位		27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	展覧会の観覧者数(延べ人数)		9000	13093	7000	7372	
	成果指標	実施した展覧会(特別展・企画展・特別陳列・コレクション展示)の回数(回)		9	9	4	4	
定性目標								
事業概要	<p>飯田下伊那地方は、江戸時代の佐竹蓬平や鈴木芙蓉を筆頭に、様々な美術家を輩出した地域である。これら伊那谷に関わりのある美術家についてコレクション展示や特別展を実施する。この事業により美博に訪れれば伊那谷ゆかりの美術を鑑賞することができ、飯田の文化芸術を概観することができるようにする。これによって地域の文化芸術に感動し、誇りと愛着を実感できる場を作る。この事業は以下の内容となる。</p> <p>1 郷土作家の館蔵品・寄託品などをコレクション展示を通じて公開する。 2 郷土作家に関する特別展を計画し、実施する。</p>							
28年度事業内容	事業内容			名称		活動指標		
	<p>1 コレクション展示(郷土美術関連)</p> <p>(1) 鈴木芙蓉のいま 平成28年8月27日～9月25日 (2) 城田孝一郎の木彫 平成28年10月1日～11月27日</p> <p>2 企画展(郷土美術関連)</p> <p>(1) 第17回現代の創造展 平成29年2月19日～3月12日</p> <p>3 特別展(郷土美術関連)</p> <p>(1) 創画会70周年記念展 平成29年3月16日～5月7日</p> <p>4 刊行物の発行</p> <p>(1) 図録『城田孝一郎の木彫』 (2) 図録『創画会70周年記念展』</p>			<p>1 コレクション展示の開催数</p> <p>2 企画展示の開催数</p> <p>3 特別展示の開催数</p> <p>4 刊行物の発行数</p>		<p>1 2回</p> <p>2 1回</p> <p>3 1回</p> <p>4 2件</p>		
事業コスト	27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①	2,678	7,264	5,692	0	(国)社会資本整備総合交付金(市街地整備)(4.5/10)			
国庫支出金	531	1,962	1,287					
県支出金								
起債								
その他								
一般財源	2,147	5,302	4,405					
人件費計(千円)②	0	0	0	0				
正規職員所要時間								
臨時職員所要時間								
総事業費①+②	2,678	7,264	5,692	0				
事業内容・目標達成状況の振り返り	<p>寄贈記念の特別陳列や鈴木芙蓉の没後二百年にあわせた特別陳列をおこなったこと、現代の創造展の展示や出品作のあり方の見直しが功を奏し、観覧者数が目標値よりも増加した。鈴木芙蓉では地元地域との連携が進み地域での関心が深まった。</p>							
改革改善の考え方	①問題点	現代の創造展は近年、新人発掘やコンテンポラリー部門の充実など、企画に工夫を加えてきたが、その効果が若手の参加や他部門への刺激となり展覧会の活気を取り戻しつつある。参加者が多いギャラリートークの魅力向上が課題。						
	②改革提案	第17回現代の創造展は、コンテンポラリー部門一を中心に多くの若手が積極的に関わり、全体的に展示の質も向上してきており見応えのある展覧会となった。今後はギャラリートークなど出品者と観覧者をつなぐ工夫を考案していく。						